

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	菊池 温紀
主な担当科目	情報機器演習(応用)Ⅱ
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	情報機器の取扱いにおいて、社会人が求められる基本スキルを身につけ、活用できるようにすることを教育目標とする。授業では、課題の取り組みやすさ、実際に自分で手を動かしてみる機会を提供し、実感をもって学べることを重視する。多様な学生が安心して参加できる環境づくりに努める。
2025年の教育に関する自己評価	既存のカリキュラムに対し、取り扱うソフトウェアのバージョンアップや機能変更に対応してアップデートを行った。昨年の教訓を活かし、つまづきやすいところ、分かりにくいところについて改善を図った。上記のような取組みを行い、カリキュラム全体としては改善が図れたと考えているが、必ずしも成功といえなかったものもあった。(簡単にしすぎて手応えが失われてしまった、理解のよい学生は手が空いてしまうなど)理解度の差への対応は今後の課題と考えている(オプションな上級課題を作成するなど)。
2025年のFD活動に関する自己評価	FD研修会に参加したほか、分科会FD研修会でハイブリッド開催の設営を手伝うなど貢献した。
授業改善のために取り入れた研修内容	・情報の取り扱い方、情報の取り扱いに関する学生の認識を研修で学び、授業で触れるポイントや、重点を置いて説明するところを工夫した(全体FD研修) ・留学生など日本語の理解が難しい学生、不正行為を行おうとする学生、授業の円滑な進行を妨げる学生などへの対応方法、気を付けるべき点を聞き、授業で説明する内容を改善した(教養分科会FD研修)

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:3673 教員名:菊池 温紀

1)アンケート結果に対する所見

Q6 について、昨年度は「あまり思わない」の回答が一定割合あったが、2025 年度は極少数にとどまった。情報機器の操作方法を扱うという特性もあると思うが、「お手本の操作が速すぎてついていけない」「なぜそうなるのか理由がわからない」「操作方法は一通りではないためその度ごとに違うことを言っているように感じる」といった印象を持つ可能性を想定し、講義資料において説明の補足等の改善を行った成果と考えている。

Q9 は「専門知識・技能」次いで「実践力」を選択した学生が多い結果となっている。また Q8,Q10 も過半が「そう思う」の回答となっていることから、本科目では情報機器の操作ができるようになるという「実践力」を身につけることが目的であり、それが相応に達成できたと考えられている、という結果と理解している。

2)要望への対応・改善方策

授業で取り扱う情報機器の取扱手順について、上述したように、「操作方法を実際にやって見せること」「操作方法が一通りでない場合は複数の方法を列挙し、どの手順によっても問題がないと伝える」ことが重要なポイントであると認識し、継続的に改善をはかっている。

具体的には、実際にやって見せる際にここがポイントであると強調すること、画面拡大表示機能を使用すること、繰り返し行うこと、を実施している。

また、操作方法についても講義資料を充実し、授業で解説する瞬間だけでなく、後での見返しや自習でも確認できるよう改善を図っている。

また、学生の多様化に応じて、講義資料で使用する日本語を平易なものにしていくこと、および講義資料について自動翻訳技術を活用し多言語対応を実施している。

3)今後の課題

前項までに記載した点は、授業の目的である、情報機器の取扱いに関する実践力を高めるための技術的な事項であり、根本的には、学生自身の学ぶ意欲をさらに高めていくことが、技術を身につけることへの意欲につながり、主体的な修得にもつながるものと認識している。このような学ぶ意欲を高めるための授業方法を試行錯誤していきたい。

具体的には、演習で作成する成果物を、より実践的なもの、学生自身が興味を持ちやすいものに設定することなどを考えている。

以 上